

# フジコー、除菌装置8倍増産

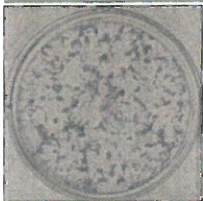


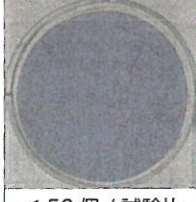
## 新型コロナウイルスの 類似ウイルス減衰 光触媒を活用

【北九州】フジコー（北九州市戸畑区、秋尾寿昭社長、093・871・3724）は、光触媒技術でインフルエンザウイルスや黄色ブドウ球菌などを

除去する空気消臭除菌装置を増産し、2020年度は前年度比約8倍の年6万台生産する。新型コロナウイルス感染症拡大で、衛生面への意識が高まり受注が急増。OEM（相手先ブランド）供給する医療機器メーカーが輸出も計画しており、2交代制で同10万台も視野に入れる。

フジコーの主力事業は複合金属製品の製造。そこで培った溶射技術を応用し、光触媒を活用した除菌装置を製品化している。これまで家庭用と業務用の2機種を製造、19年度は約7000台販売した。1月からは大手医療機器メーカーへOEM供給を始めている。さらに同社では年内に新機種の投入も計画している。

一般的な光触媒は溶

	初期	4時間後
光触媒加工なし	 26,000,000個 / 試験片	 10,000,000個 / 試験片
光触媒加工あり	 26,000,000個 / 試験片	 < 50個 / 試験片

### ネココロナウイルスの除去効果試験

剤と混ぜて使用するたため反応が劣るが、同社は酸化チタンと抗菌金属を混合した素材を800度C以下の低温で溶射し、基材に高密度に密着する被膜形成技術で効果を高めた。

新型コロナウイルスへの効果はまだ実証されていないが、北里環境科学センター（相模原市南区）に依頼したコロナウイルス類似のネココロナウイルス除去効果試験では、フィルタに付着した2600万个のウイルスが、照射後4時間で50個未満に減衰したという。

秋尾社長は「新型コロナウイルスで除菌市場に大きな変化が起きている」と話し、同装置事業の売上高を3年後30億円（20年度見込み10億円）に引き上げる。鉄鋼事業が主力の同社は、11年に光触媒事業に本格参入している。